JAGT
News
Letter
NO.16

2019年2月

Japanese Association of Gestalt Therapy

目 次

P1　**学術誌編集委員会からのお知らせ**
学術誌編集委員長からのお知らせ ～投稿論文の種類の枠を広げました～

研修委員会からのお知らせ
【1】エンプティチェア再発見・再構築
【2】スーパーバイズ受講、研修受講の記録を残しましょう

P2　**学会員による活動報告1**
組織開発コンサルタントを対象とした
「ゲシュタルト療法講座」を開催しました

P3　**学会員による活動報告2**
新しい風が吹く！学会後援イベント
「第1回全国ファシリテーター集会」開かれる

P6　特集「スーパーバイザーに聞きました！」
～アンケートで探るSVの横顔～
回答者：岡田法悦さん　守谷京子さん

学術誌編集委員会からのお知らせ

学術誌編集委員長からのお知らせ

この度、学会誌への投稿論文の種類の枠を広げました。特に、「研究報告」という種類の論文を設けた点にご注目下さい。これにより、皆さんからの投稿論文が増える事を期待しています。詳しくは学会 HP をご覧下さい。論文投稿をお待ちしています。

研修委員会からのお知らせ

【１】日本のゲシュタルト療法研究会を開催します

エンプティチェア再発見・再構築

アメリカから導入されたゲシュタルト療法も日本へ根付き４０年になろうとしていますが、日本では独自の発展を遂げてきました。中でもエンプティチェアは繊細で奥ゆかしさを大事にする日本人の心情に合った心理療法と言われています。

この度、日本ゲシュタルト療法学会研修委員会ではエンプティチェアの知見を共有し更なる可能性を探索するために下記研究会を開催します。

１．日時　２０１９年4月7日（日）１０：００～１７：００
２．場所　銀座レンタルスペース 会議室　（東京都中央区銀座 3-14-8 松宏ビル 302 号室 ）
　　地下鉄銀座駅、東銀座駅から徒歩３分
　　https://goo.gl/maps/AAoWLp68AQo
３．内容
　　（１） 参加者によるエンプティチェアに関しての関心事の共有
　　（２） 学会認定スーパーバイザーによる小講演（岡田法悦氏、江夏亮氏）
　　（３） スーパーイザー、参加者によるエンプティチェアによる個人ワーク
４．参加費　３０００円
５．定員　　３０名
６．申込み　日本ゲシュタルト療法学会事務局まで
　　学会 HP お問い合わせフォームから、お問い合わせの欄に「4 月 7 日　日本のゲシュタルト療法研究会申込み」と記入の上、お申し込みください。

【2】受講記録表を作成しました！

スーパーバイズ受講、研修受講の記録を残しましょう

スーパーバイズ受講記録表

学会員の皆さまは、自らのブラッシュアップのため研鑽に励んでいることでしょう。
この度学会では、受講記録表を作成しました。

この記録表は ①スーパーバイザーまたは登録団体が主催するスーパーバイズを受けた、あるいは参加した際の受講記録、 ②学会主催の研修受講の記録　を自分の学習履歴として把握するためのものです。スーパーバイザーもその記録から、受講者の経験を知ることができるのもメリットです。

上記、①②に該当するワークショップや講座参加の際は常にお持ちください。初参加の時に、スーパーバイザー、学会研修担当者にお申し出くだされば、受講表を受け取ることができます。ご活用ください。

----------＊---＊---＊----------

学会員による活動報告 1

組織開発コンサルタントを対象とした「ゲシュタルト療法講座」を開催しました

昨年１０月３日、４日に東京代々木で、組織開発を専門とするコンサルタントや企業のマネージャー約２０名を対象に百武正嗣氏がゲシュタルト療法のセミナーを実施しました。

ゲシュタルトによって組織開発できる！

主催者　大槻貴志

自分は企業の起業支援や組織開発を業務としておりビジネスの世界にゲシュタルトを紹介したいと思っておりました。

アメリカにおいてゲシュタルト療法はゲシュタルト組織開発として発展をし、企業組織の変革ツールとして使われています。ゲシュタルト組織開発は組織開発の手法として非常に先進的である一方で、ゲシュタルト療法を知らない方達にと

っては難解な内容であったため、私のほうで理解を深めてもらうために企画をし開催しました。いつものゲシュタルト療法と違い、講義を中心に進められ、ワークも軽い体験レベルのものでした。それでも参加者の方からは好評で、ゲシュタルトによって普段自分達が行っている組織開発を説明できることに驚きと学びがあったようです。ゲシュタルトが組織開発に有効だということを伝えることができたワークショップでしたので、今後も引き続き普及活動をしていきたいと思っています。

ゲシュタルトとは生きること

参加者　学会員　陣内裕輔

『場の理論』を提唱したクルト・レヴィンの研究成果は組織開発で応用されています。しかし組織開発専門家にはゲシュタルトの実践はそれほど広がっておらず、このワークショップは大きな反響がありました。参加者の雰囲気がいつもと違うとは言っても、「ゲシュタルトとは“生きる”ということ」というももちゃんの姿勢は同じ。今後、組織の現場にも広がっていくことを期待します。

----------＊---＊---＊----------

学会員による活動報告2

新しい風が吹く！学会後援イベント「第１回全国ファシリテーター集会」開かれる

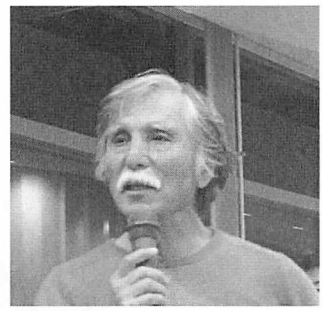
世話人　藤原勝

第１回全国ファシリテーター集会（世話人代表百武正嗣氏、日本ゲシュタルト療法学会後援）は2019年１月12.13.14日に東京国立オリンピック記念センターで開かれ、７５名の方が参加されました。

内容は、①海外招聘講師としてローガン博士による毎日のスーパーバイズ、②学会スーパーバイザー（百武正嗣・岡田法悦・江夏亮・守谷京子・平松みどり・渡辺トヨ子・定行俊彰の各氏）によるスーパーバイズ、③ファシリテーター甲子園（違う県の人がファシリテーター・クライエントになる）　④有志によるワークショップと非常に充実した内容でした。

国内外の新しい風が吹く

世話人代表　百武正嗣



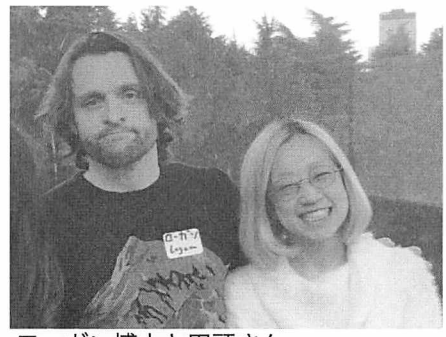
全国から予想以上の75名の参加者が集まりとても楽しい大会となりました。

学会海外顧問のアンセル博士が参加出来なかったのは残念でしたが、彼の愛弟子を紹介してくれ、Lorgan Ph.D.のスーパービジョンは驚くほど繊細なアプローチでした。ファシリテーターの人に「相手に質問しないでただそこにいる」ことを求めていました。静かであったがとてもパワフルなスーパービジョンでした。海外から新しい風が吹いたようです。この大会も全国の新しい世代が動き出したことを肌で感じられました。

ローガン博士の個人セッションに参加

ゲシュタルト療法・東京　田頭えりな

人に注目されるのが苦手、人目を気にしちゃう自分が嫌、そんなテーマでスタートしましたが、とてもゆっくりと丁寧で時間を止めて私と一緒にいてくれたセッションでした。



ローガン博士と田頭さん

彼のファシリは解釈はなく、考えてる様子も見えず、 ただと共にいてくれる。何度も僕はここにいるよとまっすぐ目を見て伝えられ、それ以上でも以下でもなくただ本当にその時の私の困惑や悲しみに共鳴してくれました。そして自分の感覚を提示してくれて、私が共鳴すると、それに沿って展開される流れを体の深い部分から体感することができました。ワークの前に、畑に例えてお話ししてくれました。まず耕すことが大切、焦ってはいけない。じっくり丁寧に耕して種を蒔き、芽が出て育つのをゆっくりと待つこと。セッション中も私の話したことについて質問はされず全てを受け入れてくれる安心感でした。

貴重な経験のファシリテーター甲子園

ゲシュタルトセラピー北海道　濱　敬志

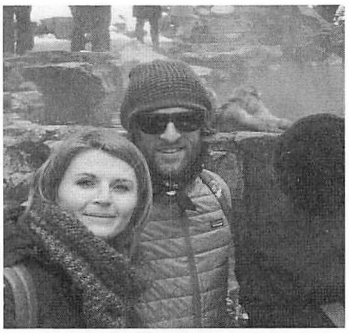
氷の世界から、ワクワクする気持ちを鞄に押し詰めて集会に参加、新たな出会いと再会に、身も心も直ぐに温まりました。

私は、甲子園に参加させて頂きました。構成メンバーが普段とは異なり、心地よい緊張感の中でファシリテーターとしてだけではなく、人としての在り方を改めて見つめ直す学びとなりました。スーパーバイザーをお相手にファシリ体験の

機会を得て、貴重な経験を積ませて頂いた事に感謝しかありません。

参加者の様子から、企画に対する高い満足度と、気づきによる幸福感が伝わって来ました。一朝一夕では得難いゲシュタルトセラピーを楽しく学ぶ新たなカタチにすっかり魅せられました・・・・。

上）大槻さん　陣内氏と共催の
ワークショップ「ゲシュタルトは組織に有効か」
左）懇親会



集会後、ローガン夫妻は長野県地獄谷の雪猿を見学

特集「スーパーバイザーに聞きました！」第2回

～アンケートから見えてくるSVの横顔～

スーパーバイザー(SV)の人となりをQ&A形式でご紹介する企画の第２弾。今回は、岡田法悦さんと守谷京子さんからアンサーを頂きました！

岡田法悦さんの答え

Q１ 自分自身を動物に例えたら何ですか？また、その理由も教えてください。

A　フクロウかな。賢いということではなくて、群れない、目立たないところ。

Q２ あなたのワークショップを何かに例えて表現してください。（色、自然、音楽、絵画などなんでも構いせん）

A　形が残らない芸術作品。私は、ゲシュタルトは科学ではなくアートだと思っています。ワークをする人と、グループの人々、そして私が一緒に、それぞれの新たな「生きる」を生み出す。作品は形に残らずワークが終わった瞬間に消え去ります。同時に、そこにいる一人ひとりの、自分との関わり・世界との関わりに変容が起きています。

Q３ 自分のどんなところを人に知って欲しいですか

A　ゲシュタルトも織り込んで独自開発した「リレーショナル・カップルセラピー」を世の中に広めたいと真剣に思っている私がいること。カップルが社会の最小単位であり、良好な関係がそこにあれば虐待やいじめ、家族間殺人など様々な社会問題を減らし、平和でクリエイティブな世の中をつくるのに役立つと思っています。

Q４ ゲシュタルト療法に出逢った頃のあなたに手紙が届くとしたら、どんなメッセージを送るでしょうか

A　「よくぞ出逢ってくれました。ありがとう！」

Q５ クライアントとして体験した思い出のワークを一つ教えてください

A　30数年前に、サンフランシスコのポーラ・バトムたち３人がファシリテートするワークショップでのワーク。「昼寝をして、夕方薄暗くなった頃に目覚めると、えも言われぬ恐怖感を覚える」というテーマでワークをしました。まだ歩くこともできない赤ちゃんの頃に、布団の上でひとり大声で泣いているのに誰も来てくれない場面を再体験しました。私が寝ている上の方

に四角い窓と薄暗い空が見えました。それは今でも目に焼き付いています。その後、昼寝の後も平和な気もちで目覚められるようになりました。

Q6 利用額を決められる魔法のカードが手に入りました。もちろん支払い義務はありません。何にいくら使いたいでしょうか。

A　この質問は手ごわい。いくらでも使えるとなると、ゲシュタルトやリレーショナル・カップルセラピーを広めたり世界平和に貢献したりなどなど、壮大なイメージが次から次へと浮かんできて収拾がつきません。Give up。

Q7 人生「最後の晩餐」に食べたいものは何ですか？また、誰とどんなところで食べるでしょうか。

A　食べたいものというより、極上のワイン。妻と二人、南太平洋の島の静かな白い砂浜で水平線を眺めながら。

Q8 これまで世界で起きた出来事の中で、あなたに大きな衝撃を与えたのはどんな出来事でしょうか。どのように心を動かされたのでしょうか。

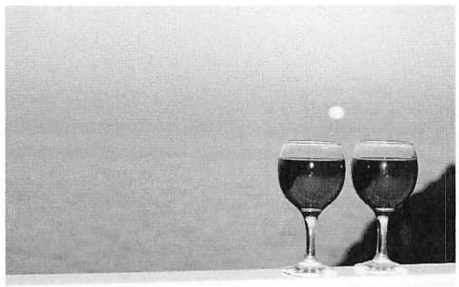
A　世界から戦争やテロがいまだに起きていること。戦争で金儲けしている奴らがいること。めちゃくちゃ腹が立ちます。

Q9 ゲシュタルト療法をここまで極められた原動力は、どんなことでしょうか。

A　極めたとは全然思っていません。ただ大好きなんです。人の心の不思議さと、実際に人の役に立っていることが続ける原動力です。やればやるほど、初心に帰ることが大事に思えるのもゲシュタルトの魅力です。

Q10 感動した著書を紹介してください。

A　ヘルマン・ヘッセの「シッダールタ」。高校の時に出会って、その後の数年間で何十回も読みました。人の成長・成熟とは何かに対する関心を若い心に刷り込み、私の人生を方向づけたと思います。



守谷京子さんの答え

Q1 自分自身を動物に例えたら何ですか？また、その理由も教えてください。

A　かつて、ホロトロピック・ブレスワークというセラピーを受けた時、夕陽を見つめている斑点のあるネコ科の動物のイメージと自分のスピリットが重なった時があります。
おそらく、ヒョウかチーターようです。
単独行動で夜行型。
チーターは、身体を大切にしています。私もそうです。
行動力が早く、平和主義で人間にもなつくとされています。
ヒョウというより、チーターに例えた方が私らしいです。
ちなみに、チーターはネコ科ですが、私は５匹のネコと暮らしています。

Q2 あなたのワークショップを何かに例えて表現してください。（色、自然、音楽、絵画などなんでも構いません）

A　音楽のジャズセッションの感じでしょうか。クライエントとグループとセラピストが、心を通わせ、共に場を共有してワークを作っていく感じです。
絵でいうと、その場に感性を傾けて描く一筆書きのアートな感じです。
自然の虹や暗闇から朝日が昇る朝焼けのようでもあります。

Q3 自分のどんなところを人に知って欲しいですか？

A　必ずや、道があると信じている。

Q4 ゲシュタルト療法に出逢った頃のあなたに手紙が届くとしたら、どんなメッセージを送るでしょうか？

A　「必ずや、太陽は昇り、道はある」

Q5 クライアントとして体験した思い出のワークを一つ教えてください

A　私の小さかった頃の自己イメージは、可憐なマーガレットのようなものでした。
あるとき、セラピストのリッキーから「ディスオウンド・パート／Dis-owned part」というワークを受けました。これは自分が阻害している自分を取り戻すというワークです。

私は小麦のグルテンのアレルギーでした。「消化吸収不良症候群」という病気で、一旦アレルギーを起こすと、何も食べ物を消化できなくなるというものでした。私はリッキーの本格的なトレーニングを継続的に受けたいと思っていたものの、病気で仕事もままならない状況だったため、トレーニング継続の十分なお金がありませんでした。

また、可憐なマーガレットのような自己イメージだったため、お金を稼ぐ手だても気力もありませんでした。

ところが、リッキーとの「ディスオウンド・パート／Dis-owned part」というワークで驚くことが起こりました。

ワークの中で、私は自分自身では気づいてはいなかったけれども、「ソティスフィケート／sophisticate／洗練」された仕事ができそうな人格「セルフ／Self」がいると、リッキーや他の受講者からフィードバックをもらいました。

ワークの中で、その人格「セルフ／Self」に「ソフィア」という名前をつけ、慣れないけれどその人格をもった人として、残りのワークショップの間過ごしてみました。案外すんなりとその人格で過ごせました。「ソフィア」は知的でスマートな社会性を持っていました。

「ソフィア」はワーク終了後、全日制の株式会社の塾を創始しました。

夜間の高校の校長先生にも会いに行って、夜間の生徒のための塾を開いているので「ぜひとも、学生を昼間の塾にも来るように奨励して下さい」と言いました。マーガレットの私では、考えられないことでした。

「ソフィア」はそのような学校訪問もなんなくこなしました。まだ、マーガレットのように可憐だという「セルフ／Self」イメージをもっていたので、どきどきしていました。しかし、リッキーのトレーニングを続けたかったので、これは「クラウニング」の延長で、ワークしているのだと思って、仕事のときは「ソフィア」という「セルフ／Self」の存在を受け止め、現実に向い合っていました。

この ワークは、人間が、自分の中にあるまだ気づいていない自分と出会っていくことによって、潜在する可能性を充分に花開かせることが可能だということを証明してくれているように思います。

いろいろな「セルフ／Self」があり、時と場所を選び、「創造的な調整」をしながら生きるように 私はなりました。

初めて自分の中にあるいろいろな「セルフ／Self」と出会っていくことや、その可能性を感じるということは、自分自身がいろいろなことを可能にするすばらしい源だと感じれました。

そして、その源に限りなく近づいていくことを、ゲシュタルト・セラピーはサポートしてくれると思い、今もゲシュタルト・セラピーを続けています。

Q6 利用額を決められる魔法のカードが手に入りました。もちろん支払い義務はありません。何にいくら使いたいでしょうか。

A　命の危機に晒されている、地上に暮らしている人間や動物の保護に使いたい。

Q7 人生「最後の晩餐」に食べたいものは何ですか？また、誰とどんなところで食べるでしょうか。

A　夫と二人で、共に好きな暖かい「入麺」を家で大切にしているネコ達に囲まれて食べたい。

Q8 これまで世界で起きた出来事の中で、あなたに大きな衝撃を与えたのはどんな出来事でしょうか。
どのように心を動かされたのでしょうか。

A　9.11 を自分の日常の生活の中で、テレビで目撃したこと。
同じ神を信じている人間同士が、主義主張のために闘う…生きていくには、何がしかの命をいただかなければ生きていけないとしても、何をそこに見出して、生きていけばいいのだろうか。
同じ地球の生き物として、生きていることを自覚し、互いに敬意を持ちたい。

Q9 ゲシュタルト療法をここまで極められた原動力は、どんなことでしょうか。

A　今、ここにいる感謝と帰依。

Q10 感動した著書を紹介してください。

A　「デミアン 」ヘルマン・ヘッセ

岡田さん、守谷さん、ありがとうございました！

訂正文

2018 年９月発行ニュースレターNo.15 に誤字がございましたので訂正いたします。
P12 最下段写真の上　誤）白石　→　正）白坂
読者の皆様と、ご迷惑をおかけしました関係者の皆様にお詫び申し上げます。

《編集後記》

第３期理事会発行のニュースレターは今号で最後となります。たくさんの方々のご助力を賜りながら、ここまで編集に携わることができました。この場を借りて感謝申し上げます。４月からは新評議員会、新理事会が発足します。

広報（ニューズレター）担当：森下そうこ

日本ゲシュタルト療法学会

〒235-0023 神奈川県横浜市磯子区森 1-10-9-201　ハートフリースペース内

TEL045-752-1759／FAX045-752-1859

WEB http:www.ja-gestalt.org